**第２１回上サロベツ自然再生協議会再生技術部会　議事概要**

日　時　平成２８年２月２９日１３：２０～１５：３０

場　所　豊富町定住支援センター多目的ホール

出席者　１６名（個人６名　団体１０名）

傍聴者　１４名

1. 開会

・資料の確認

２．議事（報告）

1. **緩衝帯・沈砂地のモニタリングについて**

○北海道開発局稚内開発建設部から報告

《質疑》

（構成員）　緩衝帯の基本構造を当部会で議論した際に、新排水路の開削により発生する掘削土を緩衝帯の農地側に盛り土することにより、下部の泥炭の圧密沈下を促進させて透水性を下げ、緩衝帯の機能を向上させる事を提案していた。今回の報告資料の緩衝帯イメージ図にはこの盛り土が省略されているが、今後は反映させてもらいたい。

（事務局）　了解した。

（構成員）　緩衝帯の地下水位保持機能について、これまでは地下水位観測ライン上の断面的な評価のみであったが、緩衝帯設置場所の面的な評価（例えば周辺部を含む地下水位コンターで示すなど）によって効果の発揮状況を表現できないか。

（事務局）　地下水位のモニタリングは、観測ライン上でしか行っていないので、手持ちのデータのみでは表現は難しい。ただし、面的に表現することは緩衝帯の効果を対外的に説明する際に有効な手段と考えるので、実現の可否を含め検討したい。

（構成員）　緩衝帯部の盛り土の効果について、経年的な透水性の変化を説明することはできないか。

（事務局）　現場透水試験等による透水性の確認は行っていないが、地下水位観測結果から、透水係数を推定できるかもしれないので、可能かどうか検討する。

**②　サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥地化対策について**

○環境省北海道地方環境事務所から報告

《質疑》

（構成員）水抜き水路の面的効果について、どれくらいの範囲に効果が及んでいるのか解析されたい。流れを解析してボリュームを評価できるようになれば、ササとの関係も分かるようになると思う。

（事務局） 地下水の動態解析は難しく、調査は考えていない。落合沼の図の紫色の箇所に堰堤を作ってからの調査では、工事前に実施した調査と比較して、水位が上がっている。堰堤を作ったときの周辺の植生を調べて変化なしとの結果が得られているが、その後の長期的な影響があるかもしれない。工事前のデータと十分に比較していないのでできれば比較したい。影響が及んでいるのかについては測量の精度等の検証によって分析を考える。

**③　サロベツ原生花園跡地の植生回復試験について**

○環境省北海道地方環境事務所から報告

《質疑》

（座　長） 泥炭を埋め戻したところは一見植生がよく付いているが、単調化しつつあり、むしろ乾燥化しているのではないかと理解している。H28年度は他のブロックにも泥炭を播くのか。

（事務局）　H28は実行せず、計画を立てたい。

**④　泥炭採掘跡地の植生回復試験について**

○環境省北海道地方環境事務所から報告

《質疑》

（構成員） 裸地での対策のことではないが、採掘跡の開水面について、オオヒシクイが塒として利用している状況なので、生き物との兼ね合いを考慮して事業を検討していただきたい。

（事務局） ご指摘の通り開水面は水鳥が利用しているので積極的な埋め戻しは行わない。現在埋め戻しをすることになっている箇所は高層湿原の箇所だが、埋め戻しにつかう泥炭はササ根が混入しているので、危険を感じている。ササ原の開水面もあるのでこちらに試験区を変えることを考えている。これについては調査して協議会に諮りたいと考えている。

（座　長) 今後対策を加速するために裸地の緑化施工範囲を展開していくとなっているが、これはH28年度に行われるのか。

（事務局）　H28年度に計画を立て、H29年度以降に行う。

**⑤　丸山周辺のササ進入抑制対策について**

○環境省北海道地方環境事務所から報告

《質疑》

（構成員） ササの対策のために溝を掘るということだが、一般的に湿原に溝を掘ると溝の表面が新たな境界条件となり、付近全体の地下水位を下げる結果を招くこともある。ササの新たな生息域を作ることになるのではないか。

（事務局） 地下水位は溝を掘る際に下がることがないように検討している。地下水位が地表面に近ければ水面が出ていなくてもササは衰退することが分かっているのでそれを目指している。

（構成員） 等高線に交わる方向の溝は水位を下げる働きをするが、等高線に平行な溝は水をせき止める効果がある。当該地は緩やかな傾斜方向に溝が並んでいることから水位が下がる懸念がある。

（事務局）　水を動かさないよう、設計の段階では溝の底はレベルにするように考えているが、実際に設計通り施工できているかはモニタリングにより検証していきたい。

（構成員）　ササに対する直接的対策よりは、ササが増える原因を取り除く方が重要と思うが。

（事務局）　環境省ではササの繁茂抑制を重要視している。ササ侵入の原因を取り除くことが一番よいが、根本的な原因は不明である。人為的な影響は最大限取り除くが、ササ拡大に対する根本的な対策はまだ無いのが実情であり、知見を積み重ねていく。

（構成員）　道道（湿原横断道路）の丸山を西へ出たところで、国立公園指定以前にはなかったハンノキが群生している。

（事務局）　ハンノキは今後も注視していきたい。

**⑥　平成２７年度稚咲内砂丘林自然再生事業報告**

○林野庁北海道森林管理局から報告

《質疑》

（構成員） 砂丘林帯の湖沼の水位について、H7頃から急激に水位が低下したと感じているが、原因について判明しているものはあるか。また今後の見通しはどうか。

（座 長）　水位の下がった時期の特定は難しいが、一つは砂丘の間の農地化が影響しているのではないか。

（構成員）　以前は砂丘林内を一年中散策できたが、H7年頃から急に蚊が増え、沼の水位が減った印象がある。

（座　長）　何らかの変異があったのかもしれない。

（構成員）　立ち枯れ調査の件について、生木と稚樹の密度について順調に更新が進んでいるのか。また広葉樹についても落下種子量が多い結果になっている。鹿の食害がひどいエリアだったと思うが、鹿害の状況はいかがか。

（事務局）　更新については良好である。また鹿による被害は目立つ状況ではない。

（構成員） 湖沼については水生生物魚類の調査はあるが、水鳥の調査はいかがか。

（座　長） ベースとなる調査情報は重要だが、誰がその調査を行うのかという点について言えば、森林管理局が行うべき調査とはまた少し違うと思うので、皆さんで協力して調査していくしか方策はないように思う。問題提起として承りたい。

**平成28年度事業計画（案）について**

○事務局から提案

《質疑》　質問意見なし

３．その他

**ペンケ沼の面積の変化等について調査を行う件**

* 宗谷総合振興局から報告

　前回調査から５年が経過しているので、来年度（2016年度）に再び調査を予定している。

《質疑》

（構成員）　近年ペンケ沼の環境がどんどん変化しており、具体的な対策を検討すべき段階になりつつあると考える。

（座　長）　調査実施前に調査内容に関する情報をいただき、当部会で共有させていただきたい。

（事務局）　了解した。

４．閉会